



笑顔と夢を
未来につなぐまち



広報おけと

KETO

2024

1



人と、木と、おけと



笑顔あふれる 住みよいまちづくりを

置戸町長 深川 正美

新年、明けましておめでとうございます。

皆さまには、輝かしい新春を健やかに迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、町政に対する格段のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

振り返りますと、令和元年12月以来、瞬く間に世界各国で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症拡大によって、人々の経済活動や生活様にも多大な影響が及んでおりましたが、昨年5月8日より感染症上の分類が「2類」から「5類」へと引き下げられたことにより、徐々に日常が戻ってまいりました。

本町でも、昨年7月、夏の風物詩でありました第46回人間ばん馬大会を4年ぶりに開催することができ、晴天の中、大勢の方々の笑顔あふれる楽しい1日となりました。アフターコロナへの転換が進む中で、引き続き、国や北海道とも連携した各種対策に取り組んでまいります。

一方で、ロシアによるウクライナ侵攻から早2年が経過しようとしておりますが、終結に向かう動きはまったく見えません。世界経済の混乱は続き、燃料や原料、食料品の価格高騰も続くばかりです。町民の皆さまの生活安定に向けた取り組みについて、商工会と連携を図りながら着実に進めてまいります。

昨年は、皆さまのご協力をいただき、私の公約であります児童館建設に向けた基本設計に着手することができました。今後、本町の子どもたちが安全に楽しくのびのびと過ごせる施設建設が進んでいくものと期待をしているところです。

本町の人口も2,600人台となり、高齢化率も40%を超えるなど、ますます地域経済やコミュニティ活動に深刻な影響が及んでおります。現在、町内で8名の地域おこし協力隊員が活躍しておりますが、本年中に卒業を迎える隊員もおります。引き続き、町民として居住していただけるようバックアップをしていくと同時に、意欲ある新規隊員の募集を進め、地域の活性化に努めてまいります。

昭和45年からへき地患者輸送車として運行され、平成30年度からは地域巡回バスとして運行してきましたが、年々利用者数が減少し、また、バス路線までの移動が難しいという声も多く聞かれることから、地域巡回バスに代わる新しい移動支援対策を早急に進めたいと思います。

また、本町において唯一の公共交通機関である北見バスが、利用者の減少に加えて、運転手不足による減便を余儀なくされております。昨年からの北見バスフリーパスチケットの購入費用の半額助成を実施しておりますが、町民の皆さまのご利用を切にお願い申し上げます。

辰年である本年は、陽の気が動いて万物が振動するので、大きく成長し形が整う年だと言われております。笑顔あふれる住みよいまちづくりを推進するために、町民の皆さまとともに力を合わせて、暮らしに寄り添う施策を進めてまいります。

本年が皆さまにとりまして、健康で幸多き年となりますことを心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

町民が楽しく心を 寄せ合う「まちづくり」を～

置戸町議会議長 岩藤 孝一



明けましておめでとうございます。
年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。皆さまにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新年を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃より町政の発展と議会運営に対して多くのご支援とご協力をいただいていますこと、深く感謝を申し上げます。

昨年4月の町議会選挙において3名の新人議員が誕生しました。町民の皆さまの付託を得た新たな議会構成の議長として新年を迎え、その責任の重さを改めて感じると共に、置戸町のさらなる発展のために引き続き努力してまいりたいと決意を新たにしているところでございます。

昨年を振り返りますと、全国的に高温が続き、地球温暖化を超えて地球沸騰化とさえ言われ始めるような状況でありました。そういった影響からかゲリラ豪雨等と言われる集中豪雨により、各地で畑や道路等の冠水による被害が多発しました。幸いにも置戸町には甚大な被害はありませんでしたが、将来的には大いに危惧しなければならない状況だと思われまます。

円安やウクライナ紛争の影響から燃料の高騰や物価高と生活への影響が大きい状況となりました。とりわけ畜産業への飼料高騰等による生産コストの増加は単に行政としての支援や生産者の皆さまの努力だけでは対応しきれない難しい状況に陥りました。置戸町を支える1番の基幹産業である農業は国際的影響を直接的に受ける大変な農業経営を促されていると思います。改めて、その経営努

力に敬意を表する次第です。

また、Aコープへの支援も行われ、リニューアルオープンとなりました。町内最大の食料品販売店としてのAコープおけと店は今や町民の台所として欠かすことのできない店舗、インフラであります。将来にわたり町民が安心して暮らしていくことができると安堵しているところであります。さらには、勝山郵便局が勝山公民館へ移転し、住民票等の交付もされるようになりました。特に高齢化が進む勝山地区にとってはATMが残ったことは生活していくうえで、とても安心されたことと思います。

少子高齢化が進む置戸町ですが、「置戸町ボランティアつつじの会」が創立50周年を迎えました。ボランティア精神に則り、善意ある友愛精神と社会福祉に対する貢献の活動に感謝と敬意を表する次第です。

本年は町長選挙、改選期でもあります。待ったなしの少子高齢化や人口減少と課題は山積みであります。第6次総合計画の総仕上げに向けてハード面、ソフト面と計画し実行していかなければなりません。計画が将来像を十分に満たしているか等々、町民の皆さまと心を寄せ合い、皆さまの代表機関の議会として監視し、提案もしていきたいと考えておりますので一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

結びにあたり、新しい年が活力にあふれ、町民の皆さまが笑顔で暮らせる素晴らしい年になりますよう心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶いたします。

年男・年女が語る

辰年（たつどし）生まれの5名の方々に、日々の生活や

町民の方に恩返しを

昭和49年に保健師として置戸町へ来たという三浦さん。現在は「NPO法人置戸町くらしサポートたちつと」の副理事長として活動しています。「昨年で印象に残っていることは、新型コロナウイルスが落ち着き、町の行事が開催されるようになり、キッチン木の実として出店することができたこと」。お客さんから「おいしい」「ありがとう」などの声を聞けることが嬉しいそうです。「いつも町の人に支えてもらっているので、恩返しができるばいいなと思っています」と話してくれました。

今年の抱負を伺うと「健康に過ごして、もう少し頑張ろうかな。あとは、キッチン木の実が10周年を迎えるので、記念に何かできたらいいな」と笑顔で話してくれました。



三浦 富美子さん（心和）

昭和27年生まれ

心を込めて商品製作を

置戸町出身の佐々木さんは、手作業が好きだったこともあり、平成24年にオケクラフト作り手養成塾に入塾し、2年間の研修を終えオケクラフトの作り手として独立。平成28年に工房開設と同時にオケクラフトショップくつろ木をオープンしました。「お客さんが喜んでもらえるように1つずつ丁寧に製作しています」と話す佐々木さん。

休みの日には家でゆっくり過ごし、読書やお酒を飲みながらユーチューブを見ることが日課になっています。

作り手としてこれからもいろんな技術を習得していきたいという佐々木さんに今年の抱負を伺うと「注文していただいた方の手元に1日でも早く商品が届くように、生産量を増やしていきたいです」と話してくれました。



佐々木 寛之さん（拓殖）

昭和51年生まれ

2024年私の抱負

今年の抱負について語っていただきました。

新しい楽器に挑戦したい

小さい頃から消防士になりたかったという石澤さん。一昨年の4月から北見地区消防組合置戸支署で勤務しています。

「昨年を振り返ると、良いことも悪いこともあったけど、楽しい1年でした。1年前より仕事や私生活ともに忙しくなってきた、地元の友達に会える回数が少なくなっているのが少し残念」と話してくれました。普段は、趣味である野球や職場の先輩とドライブに行ったりして過ごしているそうです。

新たに挑戦したいことや、今年の抱負を伺うと「楽器が好きなので、バイオリンを少しやってみたいです。今年の抱負は、たくさん現場経験を積んで、人助け、人の役に立ちたい」と話してくれました。



石澤 慧祐さん(協生)

平成12年生まれ

子どもの成長が楽しみ

夫妻で辰年の泰斗さんと恵理さんは、川南で小麦や馬鈴薯などを生産する畑作農家。「昨年は天気に振り回されました。春は少雨で秋は多雨、夏は暑くて大変だった」と1年を振り返る泰斗さん。最近は、運動不足解消のためランニングを始めたそうです。

3兄弟の子育てに奮闘中の恵理さんは、仕事と家庭でバタバタと忙しく、気づけばあっという間の1年だったそうです。

昨年は長男が小学校へ入学するなど、子どもたちの成長を日々感じているというお二人に今年の抱負を伺うと「お互い健康に気をつけてケガなく仕事をしたいです。そして昨年は忙しくて行けなかった家族旅行に行きたいですね」と笑顔で話してくれました。



遠藤泰斗さん・恵理さん(川南)

昭和63年生まれ

まちづくり移動町長室 を開催しました



11月21日から29日にかけて、まちづくり移動町長室が各地区4会場で開催され、延べ77人の参加がありました。

各地区のテーマや課題について、それぞれ現状を説明した後、「おけとのまちづくり」について町長と参加者との懇談を行い、多くのご意見やご提案をいただきましたので、主な内容についてご紹介します。

(掲載スペースの都合上、内容を抜粋して掲載しています。)

秋田地区

●11月21日(火) ●秋田地区住民センター ●参加者22人

【テーマ】秋田レクリエーション公園の環境整備について

秋田レクリエーション公園は、平成25年に2コース18ホールのパークゴルフ場や多目的グラウンド、東屋、遊具が整備され、子どもから大人までレクリエーション活動ができる憩いの場として数多くの方が利用しています。

環境整備は地域住民で構成する「秋田小メモリアル公園環境維持管理組合」が行っていますが、地域からは構成員の高齢化や人材不足で作業が次第にやりきれなくなっていることなどの現状につ

いて説明があり、今後の管理について懇談が始まりました。

町長

秋田レクリエーション公園は、秋田地区の住民だけではなく町外からも多くの方が訪れてパークゴルフを楽しんでいます。しかし、管理する人がいなければ、このパークゴルフ場は維持できないと思います。町内でパークゴルフ場だけではなく維持管理のできない施設ができつつあることは事実です。他の公共施設を含めて町外や異業種の業者に対して草刈などの業務ができなにか打診を始めているところです。

今後の維持管理について何か新しい方策を考えなければならないと思っていますが、公共性の高い施設をどうやって残していくかはすぐ解決できない問題ではありますが、地域の方からもいろいろな案などがあれば参考にしていきたいと思います。

参加者

地元の人たちでスタートしましたが、作業員の確保について苦労してきました。地域として必要な施設なので維持管理も当然していかなくてはなりません。現状は作業ができる人も少なくなってきました。維持管理をしていく人たちをどうすれば確保できるのか将来を見据えて行政協力のもと地域と相まって、何かいい方法はないのかなと思います。自分たちが動けるうちは作業も含め

て地域に協力していこうと思っていますので、元気なうちに町も何とかバックアップできるような体制をお願いします。

町長

パークゴルフ場に集まって雑談をしながら運動することが、健康を維持する意味でも大きな役割を果たしています。大会運営も含めて地域のいろんな方が努力されているのを目の当たりにして本当によくやっていただいていると思っています。環境整備について地域もこんなことができる、役場もこんなことができたなら対応できるなど方策を考えていきたいと思っています。

境野地区

●11月24日（金）●境野公民館 ●参加者18人

【テーマ】境野市街地の地域巡回バスの運行について

町民の移動手段のひとつである地域巡回バスは、年々利用者数が減少していく状況であるため、昨年11月に運行路線と時間の見直しや境野市街地区への運行を検討しましたが、北見バスの運行路線でもあることなどから路線の拡大と便数を増やすことができませんでした。

本町の高齢化も進む現状にあり、地域巡回バスの利用者が減少傾向にあることなどを踏まえ、現在運行している地域巡回バスについては今年度をもって廃止し、来年度から新たにハイヤー料金助成制度の実施を検討していますが、地域の皆さんのご意見や考えをお聞きしました。

【ハイヤー料金助成事業制度】

対象：70歳以上すべての方、また、70歳未満の方で運転免許証を持たない方、または自家用自動車を保有しない方で身体障害者手帳の交付を受けている方、療育手帳の交付を受けている方、介護認定を受けている方、運転免許証を自主返納した方。なお、施設入所者は除く。

利用可能なハイヤー会社：有限会社置戸ハイヤー
利用可能時間：ハイヤー事業者の営業時間内（8時から22時）

利用可能範囲と用途：町内全域（町外利用不可）、用途制限なし。

助成内容：乗降1回につき500円を負担いただき、それを超えるハイヤー料金を全額町で負担。

施行期間：令和6年4月1日

参加者

この助成はありがたいと思います。私の親の話ですが、元気なうちは交通手段を考えていませんでしたが、私が付き添わないと病院に行けないような歳になりました。ただ、利用しやすくなればハイヤーが混み合い、指定された時間に病院に行けるかどうかという心配があります。

担当課長

基本は事前予約をしていただくことをルールにしようと考えています。そうすることで時間の調整をしていければと思っています。

町長

この1回500円というのは4人で乗り合わせてもらえば1人125円となります。3人で病院に行く場合、乗り合わせをすれば3回ハイヤーが走るところ1回で済むこととなりますので効率の良い運行ができると思います。

地域巡回バスの利用が伸びない状況のなかで何がニーズなのかを考えたとき、高齢者が停留所まで行くことが大変になってきたという方、用事がある時にバスの時間や曜日が合わないということが多くハイヤーを使いますという方もいます。必要なときに、そして運転免許証を持たない方、自主返納した方が用を足せるような制度を創設したいと考えています。

参加者

利用する際、申請手続きは必要ですか。

担当課長

現在制度設計を進めていますが、手続きは不要とし、ハイヤー利用時に保険証やマイナンバーカードなど本町に住んでいることや年齢がわかるものを提示すれば助成を受けられるような利用しやすい制度にしたいと考えています。

【その他・テーマ以外のご意見】

参加者

昨年度のテーマでもあった、空き家対策について進捗状況をお知らせください。

担当課長

現在、町では空き家対策計画の策定作業を進めていますが、町内には概ね195軒ほどの空き家があり、持ち主の調査をかけています。今後は、空き家と思われる住宅をお持ちの方に対してその空き家をどうされるのかという聞き取りを行い、対策を具体化していきたいと思っています。

置戸地区

●11月28日（火） ●中央公民館 ●参加者23人

【テーマ】ごみの処理方法について

現在、ごみの収集を市街地区・農家地区を合わせると日曜日以外の週6日間行っていますが、2024年4月以降からトラック運転手などの時間外労働時間の上限が制限される2024問題により委託業者からは「現在の人員では週6日収集を継続することは困難」との報告を受けています。

町では令和6年度以降のごみの収集方法として、3つの案で検討を進めていますが、地域の皆様のご意見や考えをお聞きしました。

【ごみ収集方法の3つの案】

- ①週6日のごみ収集を継続する。
- ②生ごみ収集を週1回に変更し、ごみ収集を週5日に変更する。
- ③生ごみを燃やすごみとして収集し、ごみ収集を週5日に変更する。

町長

これまで町民の皆様のご協力により堆肥化をする生ごみ、埋めるごみ、リサイクルできるようなプラスチック製品などそれぞれ分別を行っていますが、近年分別が困難になってきている人も出てきているようです。

他町では、今年の春から生ごみを燃えるごみに入れて収集する方法に変更し、町民からは便利になったという話も聞いています。

現在の燃やすごみは北見市の焼却施設に運搬していますが、生ごみを燃やすごみとして収集する場合には受け入れ側とも協議が必要となります。

働いてくれる人がなかなか見つからず、人材確保するのが難しくなってきた状況のなか、どのようなごみの収集方法が良いのか検討しているところです。

参加者

最近では1人世帯や2人世帯が多くなってきており、1番小さい生ごみ袋でもいっぱいになりません。長い期間生ごみを入れておくと臭いも発生し、袋が破れてしまいます。各家庭ではいろいろと努力はしているようですが、何かいい方法がないかと思っています。

副町長

生ごみ袋については業者ともいろいろ話をしていますが、堆肥化をする場合は今の柔らかさが限

界のようです。

参加者

生ごみ袋が大きすぎてもったいないという声が多くあります。もう少し小さい生ごみ袋やジップロックのようなチャック付の袋があればいいと思います。

町長

今年の夏は暑くて何日も生ごみを家の中に置くと臭くて大変、そして袋が破れるという話も聞きました。業者とも臭いのしない方法など研究してみたいと思います。

参加者

家庭のごみを取り扱うことが多いのは女性だと思いますので女性の意見を聞く場所を作り、その上で判断した方がいいのではないかと思います。

町長

一定の方向が見えてきたら女性の方々に相談させていただく機会を設けて、どんな課題があるのかご意見をいただきたいと思います。



勝山地区

●11月29日（水） ●勝山公民館 ●参加者14人

【テーマ】地域公共交通について

境野地区と同様に、地域巡回バスの利用者が減少している状況に加え、北見バスの現状について説明がありました。

北見バスの運行は、少子高齢化や人口減少が進むなかで年々乗車数が減少し、さらには運転手不足に伴う減便が実施され、路線維持に向けては非常に厳しい状況です。

このような状況のなか、日常生活の移動が困難な高齢者等に対して通院や日常生活における移動を支援し、住みよいまちづくりを進めることを目的としたハイヤー料金助成事業制度について、来年度から実施を検討していますが、地域の皆様のご意見や考えをお聞きしました。

町長

地域巡回バスは無料で乗車できましたが、ハイヤーは1回500円を負担していただくこととなります。500円は毎日乗ればそれなりにお金はかかりますが、乗り合わせをすれば自己負担を少なくすることができます。また、対象者が乗っていれば家族も同乗できます。

急用ができた時でも時間を気にすることなく利用できるよう、皆さんのニーズに合わせた交通機関とするためにもハイヤー料金助成事業を進めていきたいと考えています。

参加者

1回の利用で最低何人以上という人数制限はありますか。

担当課長

人数制限はありません。1人でも利用することができます。

参加者

乗り合わせをする時に近所の方や友達と会話をするきっかけにもなりますし、お互いに声を掛け合うことが勝山地区でも大事なことだと思いますので、上手に利用していきたいと思います。



懇談テーマとは別に、町から全地区の皆さんに「地域おこし協力隊」、「児童館等建設に向けた進捗状況」、「カラス対策」について説明をしました。

地域おこし協力隊

現在8名の地域おこし協力隊員が活動していますが、そのうち7名が来年度に任命から3年目を迎え、卒業されるという状況にあります。

卒業後についても本町で暮らし活動していただきたいという思いがありますので、町としても協力隊員と丁寧な面談等を続けながら、サポートしていく体制や環境づくりをしていきたいと考えています。なお、本年4月より旧タニザキ店舗に協

力隊事務所を設置していますので、お気軽にお立ち寄りいただければと思います。

児童館等建設に向けた進捗状況

児童館等の建設に向けて基本的な考え方をまとめた「置戸町児童館等建設基本構想」では、新施設の整備に関して基本方針や建設計画地、施設の機能などが示されています。

今後は基本設計、来年度に実施設計、その後建設に向けた準備を進め、令和8年度からの開設を目指しています。

(置戸町児童館等建設基本構想の概要は広報おけと12月号に掲載しています)

参加者

児童館での活動を充実させて中学生や高校生が行ってみたいと思うような魅力的な場所、自主的な活動ができるような仕組みを考えていくことが大事だと思います。(秋田地区)

町長

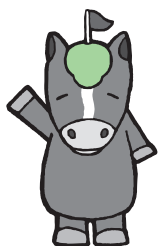
新しい児童館では、小学生だけではなく中学生や高校生、地域の大人たちとも交流できるような施設にしたいと思っています。機能面などについてはまだ未定の部分がたくさんありますが、多くの方のご意見をいただきながら運営やあり方について今後考えていきたいと思っています。

カラス対策

町では、カラスの目に当たると嫌がる光を出す害鳥駆除用のレーザー照射機を使用して駆除を試験的に行っています。主に電線などに集まってきたカラスに対してレーザーを照射してそこに集まっている時間を短くさせることや、寝床にして山へ戻ってきた時に照射して寄り付かないようにすることを繰り返し行っています。町全体でカラスの数を減らすことはなかなか厳しいとは思いますが、一定程度の有効性は感じています。今後も継続して行っていきたいと思っています。

■お問い合わせ

企画財政課地域情報係 (☎52-3312)



第58回置戸町表彰式

第58回置戸町表彰式が2月18日（予定）に中央公民館で開催されます。令和5年度の表彰者として受賞される方々の功績と栄誉を称え、お名前と業績をご紹介します。

功労表彰

自治功労 須藤 久義氏（豊住）

平成11年12月より6期24年の長きにわたり置戸町選挙管理委員会委員及び委員長として、公平な選挙の管理執行とその推進を通して地方自治の発展に寄与されました。

自治功労 高谷 勲氏（川南）

平成19年5月より4期16年の長きにわたり置戸町議会議員として、住民福祉の向上や産業振興等に尽力し、本町の隆盛と地方自治の発展に寄与されました。

社会貢献表彰

高橋 伸也氏（緑栄）

昭和62年に置戸消防団に入団以来、36年4カ月にわたり本町の防災に尽力され、副団長として団員の指導にあたるなど消防団活動の発展に多大な貢献をされました。

置戸町ボランティアつづじの会

昭和48年の結成以来、社会奉仕の理念のもと、高齢者への友愛訪問や施設慰問など50年の長きにわたり継続され、地域の社会的活動に多大な貢献をされました。

社会貢献表彰（白寿）

江口 フサ氏	湊谷 幾子氏
小林 千枝子氏	池西 キヌ氏
小木 イデ氏	丸子 スギ氏
斉藤 時子氏	米地 ヌイ子氏
米本 明善氏	

善行表彰（寄附）

樋渡 良雄氏（北見市）

有限会社後藤木型製作所

前代表取締役 後藤 都喜雄氏（帯広市）

勤続表彰

消防団員

（40年）

前田 篤氏

（30年）

河野 由文氏

平 政彦氏

谷 和美氏

伊藤 敏生氏

（20年）

大西 研一氏

清水 直樹氏

中澤 光太郎氏

表彰状の伝達

西島 勝司氏（中央）

社会福祉への貢献により平成10年に日本善行会善行銅賞、平成28年に特別表彰「銀賞」を受賞し、現在もなお、その善行活動に尽力され、日本善行会特別表彰「金賞」を受賞されました。

※掲載は年齢・年数順及び寄附の受納日順

あゝの頃

— 写真で語る
おけと —

今回は、今の時期にはお馴染みの風景である正月遊び、板かるた。その背景と置戸との関係について紹介します。



大会は3人組で対戦し、
チームで優勝を目指す

正月の遊びといえば板かるた。昔ながらの正月遊びは道内で独自の進化を遂げており、一般的な百人一首とは違い厚い板製の取り札で、下の句のみを読み上げるなどいくつかの異なる点がみられます。その由来には会津若松出身の移住者たちが明治期に広めたのだと言われています。

昔から置戸町でも地区ごとにかかるた大会が開かれました。全町を範囲に広げた大会は70年代から始まり、昭和期の終わり頃には規模を増し網走管内、道東地域に呼びかけて20以上のチームが参加するほどだったようです。

このようなブームの裏には、有名な尾崎紅葉『金色夜叉』の冒頭で貫一・お宮が出会ったのがかるた大会、という要素がひとつあり、長田幹彦の続編が置戸を舞台に書かれた縁も相まって置戸主催の理由にもなっていたものと思われる。

近年はやる人自体が減りつつも、この昔からの娯楽文化に今一度挑戦してはいかがでしょうか。

(参考資料：置戸タイムス)

喜びと悲しみ(敬称略)

■ご出生おめでとうございます

○芳村 聡太 女児 弓子(ゆみこ) 中里 11/22
 絢子

■お悔やみ申し上げます

○村澤 正孝	81歳	中里	11/1
○黒川 新一	81歳	若木	11/2
○伊藤 功一	71歳	西町	11/5
○松野 浩利	88歳	宮下	11/7

人の動き

●世帯数 1,365世帯(−2世帯)

●人 □ 2,612人(−6人)

●男1,206人(−6人) 女1,406人(±0人)

令和5年11月30日現在()内は10月末比

置戸の情報をインターネットでチェック!



ひと、木と、おけと



ホームページ



YouTube

■今月号の表紙：12月9日、こどもセンターどんぐり防火もちつき会

■裏表紙：虹の滝氷瀑(多田和弘氏撮影)

